

## 標準委員会 第13回システム安全専門部会議事録

1. 日 時 2011年3月1日（火） 15:00～16:40

2. 場 所 第5東洋海事ビルD会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員） 関村（部会長），更田（副部会長），河井（幹事），阿部（弘），野中，福谷，文能，益子，工藤，竹内，大嶽，山崎，卷上，久宗，成宮，黒村，大崎，中村（隆）（18名）

（代理出席委員） 内藤（及川代理），真寄（西川代理）（2名）

（欠席委員） 勝村，松岡（2名）

（委員候補） 北島（1名）

（常時参加者） 0名

（説明者） 矢野（1名）

（事務局） 岡村

4. 配付資料

STC13-1 前回議事録（案）

STC13-2 人事について

STC13-3-1 「原子力発電所の高経年化対策実施基準 追補2(案)」の決議投票の結果について

STC13-3-2 原子力発電所の高経年化対策実施基準（追補案）標準委員会決議投票の意見集約表

STC13-3-3 標準委員会意見対応新旧対照表

STC13-3-4 「原子力発電所の高経年化対策実施基準（追補2案）」

STC13-3-5 「原子力発電所の高経年化対策実施基準:2010（追補1）」

STC13-4-1 PLM 実施基準 2008 年版英訳のネイティブチェック反映案

STC13-4-2 PLM 実施基準共通訳語表

STC13-4-3 PLM 基準／IAEA 安全基準用語比較表

STC13-4-4 Code on Implementation and Review of Nuclear Power Plant Ageing Management Program:2008

STC13-5 システム安全専門部会における標準策定スケジュール（2011年度以降）

STC13-6 第3回 システム安全合同タスクグループ議事録（案）

STC13-7 分科会の活動状況について（前回システム安全専門部会（11/24）以降）

参考資料

STC13-参考1 システム安全専門部会委員名簿

STC13-参考2 標準委員会の活動状況について

5. 議事内容

議事に先立ち，事務局より，委員22名中代理委員も含めて20名が出席しており決議に必要な

な定足数（15名以上）を満足している旨報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（STC13-1）

事務局より、本日配布した議事録（案）は委員に事前送付し、特にコメントが無かった旨説明があり、議事録（案）は承認された。

(2) 人事

事務局より、資料STC13-2に基づき、本専門部会の人事について以下のとおり紹介を行った。

a) 委員の退任【報告事項】

西川 進也（関西電力（株）） 2011年3月1日退任

b) 委員の選任【承認事項】

北島 庄一（（財）電力中央研究所）

真寄 康行（関西電力（株））

c) 委員の再任【承認事項】

工藤 義朗（（株）グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン）

審議の結果、北島、真寄両氏の選任並びに工藤委員の再任が承認された。

引き続き、分科会の人事について以下のとおり紹介を行った。

a) 委員の退任【報告事項】

① 炉心燃料分科会（1名）

西川 進也（関西電力（株）） 2011年1月31日退任

b) 委員の新任【承認事項】

① 炉心燃料分科会（1名）

真寄 康行（関西電力（株）） 2011年1月31日選任

審議の結果、真寄委員の新任について、承認された。

(3) 【書面投票結果の審議】「原子力発電所の高経年化対策実施基準（追補2案）」（STC13-3-1～4）

事務局より、資料STC13-3-1に基づき「原子力発電所の高経年化対策実施基準（追補2案）」の標準委員会書面投票の結果について、保留意見1件があったが反対はなく可決されたことが報告され、引き続きPLM分科会の文能幹事より、資料STC13-3-2～4を用いて、標準委員会委員からのコメントへの対応案及び標準原案の修正案の説明が行われた。

審議の結果、コメント対応案及び標準原案の修正案は、編集上の修正として標準委員会に報告することが承認された。

また、同（追補1）の誤記について資料STC13-3-5を用いて説明が行われ、承認された。

(4) 【報告】「Code on Implementation and Review of Nuclear Power Plant Ageing Management Programs: 2008」（原子力発電所の高経年化対策実施基準：2008の英訳版）（STC13-4-1～4）

PLM分科会の文能幹事より、資料STC13-4-1～4に基づき、原子力発電所の高経年化対

策実施基準：2008の英訳版について、ネイティブチェックに基づく修正案及びIAEA文書等との用語のチェック結果が説明された。また、事務局より英訳版は正規の標準ではなく標準の英訳という位置づけであるので、委員長、専門部会長とも相談し、通常の書面投票ではなく本日のシステム安全専門部会に引き続いて3/10の標準委員会にも報告し、同時にコメントを受けつけた上で6月の標準委員会で出版の承認を得ることとしたとの報告が行われた。コメントは、事務局まで送付するよう各委員に依頼が行われた。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ ネイティブチェックの結果で、「雰囲気暴露下で」の訳を under the environment of・・・からin the environment of the とunderからinに変えたのはなぜか。
  - 確認する。
- ・ 標準に記載されている免責条項等は英訳するのか。
  - ここに書かれているRemarks と免責条項の取り合いを検討する。
- ・ 法令の名称は、ホームページだけでなく安全条約を確認した方が良い。
- ・ 「～すべき」を、一律に「must」→「shall」に変更しているようだがニュアンス等は問題ないのか。
  - 規格なので、「shall」が普通に使われるが、一応ニュアンスも確認している。
  - エンドースされた部分は「shall」で良いのではないか。
- ・ 表の中に、○×で判定している部分があるが、日本的である。通常海外で利用されている表記にした方が良い。
- ・ Referenceとして記載されている規格規準のタイトルは英訳したものか。
  - 規格規準については英文タイトルがあるので個別に確認している。
  - 英語名で書くと、英語版があるような誤解を招くので、「In Japanese」などと書いておいた方が良い。

(5) 標準策定スケジュール（2011年度以降）について（STC13-5）

PLM分科会の文能幹事、PSR分科会の成宮幹事、炉心燃料分科会の巻上幹事、統計的安全評価分科会の工藤委員、水化学分科会の久宗委員より、資料STC13-5に基づき、各分科会の標準制改定スケジュール（案）の説明が行われた。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ 高経年化対策実施基準のエンドースはどのようになっているのか。
  - （追補1）についてはエンドースされる予定だが、その後の追補がエンドースされるかは分からない。
  - （追補1）は保安院にてエンドースされると聞いている。（追補2）以降はJNESに所掌が移るが、今後調整していく予定。
- ・ BWRにおける過渡的な沸騰遷移後の燃料健全性評価基準：2003については、安全委員会で技術評価されたが、沸騰遷移はできるだけ避けることという指針があるために現実にそのような申請が出されず、利用されない結果となっている。制改定の検討というよりは、どうすれば利用されるのか、戦略についての検討が必要。
  - Forsmarkで沸騰遷移が起きた知見なども利用して検討されたい。
  - 本標準に関しては、ノウハウに関する議論もあったと記憶している。トピカル

レポート制度との関係も明確にしていく必要がある。安全委員会では、エンドースの仕組みを作ろうという動きもあるので、そちらも見ながら次のステップを考えてほしい。

- ▶ 技術情報を保護しながら透明性もどう確保するのか検討していきたい。
  - ▶ 非公開情報はなるべく少なくするよう安全委員会からも意見が出ている。
  - ▶ 安全委員会からは、技術評価において課題も提示されており、そちらも踏まえて検討してほしい。
- 少数体先行使用燃料の標準策定はこのスケジュールで問題ないのか。
    - ▶ 次世代炉の燃料がターゲットであり、間に合うと考えている。当面申請を検討している10×10少数体燃料に関しては、海外先行使用の実績があるので、これらを利用した従来の考え方に基づく申請が可能だと考えている。
    - ▶ どのような標準になるのか。中間報告はまだ先なので、早めに情報をいただきたい。
  - 統計的安全評価の標準改訂スケジュールを示すのがよい。
    - ▶ この標準に従って作成したトピカルレポートの審査スケジュールに影響を受けるが、現段階での見通しを示して行きたい。
    - ▶ 統計的安全評価については、トピカルレポートのエンドースだけでなく、安全評価上の課題を産官で協議する仕組みを作るのがよいかも知れない。

#### (6) システム安全合同タスクの活動状況 (STC13-6)

システム安全合同タスクの久宗幹事より、資料STC13-6に基づき、第3回システム安全合同タスクの活動が報告された。

主な質疑等は以下の通り。

- 本タスクはシステム安全専門部会の下の方科会間にとどまっているが、水化学は各分野をつなぐ部分にあり、被ばく低減との関係も検討が必要ではないか。
  - 被ばく低減も考慮はしている。標準には入れる必要があると考えている。
  - 他の学協会とどのように協力していけばよいか、どうすればよいか提案してほしい。
  - 本タスクではなく、指針の数字を決める段階で調整したい。
  - そのような細かい部分ではなく、体制をどのようにするのかといった点について検討してほしい。

#### (7) 分科会の活動状況 (STC13-7)

事務局より、資料STC13-7に基づき、各分科会の活動状況について説明が行われた。

#### (8) 標準委員会の活動状況 (STC13-参考2)

事務局より、資料STC13-参考2に基づき、標準委員会の活動状況が紹介された。

主な質疑等は以下の通り。

- 標準活動検討タスクの状況はどうなっているのか。
  - ▶ 昨日報告書の案について議論をしたところであり、まだ報告できる段階にない。

タスクの資料は、委員用のホームページで見ることができるので、是非ご意見をいただきたい。

(9) その他

文能委員より、新検査制度の導入を機に、高経年化対策実施基準のセミナーを行うよう電気事業者より依頼があり5月頃を目途に計画中との報告が行われた。

主な質疑等は以下の通り。

- ・ JEAC4209が改定を計画している。本標準をまとめる際には、JEAC4209との整合を取るようにしたが、今回はJEAC側で整合をうまく取るようにしてほしい。
  - 現時点では直接話はしていないが、こちらからアプローチしたい。

次回システム安全専門部会については、5月末から6月始めに行うこととし、具体的な日程は別途調整することとした。

以 上